

第5回子育て講座

「本当の幸福とは」

使徒言行録 20 章 35 節「受けるより与えるほうが幸いである」

1956年熊本県水俣市で日本最初の公害「水俣病」が発生した。原因はチッソ水俣工場がメチル水銀が含まれた工場排水を無処理で海に流した事であった。その結果、メチル水銀に汚染された魚を食する事により多くの人々が水銀中毒となったのである。

水俣湾の魚は水銀に汚染され食べられない状態になっていたが、チッソは漁民の生活を守るために市価と同じ価格で魚を買い取っていた。そのため多くの漁師たちが収入を得るために、毎日海に出かけて行った。しかし、漁師たちは自分たちが釣ってきた魚が誰の口にも入らず、直ぐにコンクリートされる事を知ると、次第に漁に出かけなくなっていった。

・人間が生きるために大切な事は「何のために」という目的が必要である。

彼らは家族を養うという目的で汚染された魚の漁を行ってきた。しかし、それだけでは次第に彼らは自らの存在意義がわからなくなったのである。自分が魚を釣ることによって家族の生活を守る事は出来る。しかし、自分のやっていることは誰の喜びにも繋がらない事を彼らは理解した。そして、次第に誰の喜びにも繋がらない魚を釣ることをやめてしまった。

・人間は生きるために大切な事は「他者の喜びに繋がる」という目的が必要である。

人間が生きる上において最も大切な事は、自らが行う事が他者の喜びに繋がる事である。なぜならば、この行為によって人間が自らの存在意義を強く知り、自己受容できるからである。人間は誰かにために何かを行う（与える）という事により、実際には自らの存在意義を深く理解し（受ける）、喜びをもって生きる事が出来るのである。

・20世紀を代表するドイツの心理学者アドラーは語る。「人が幸福に生きるためには、『奪うことよりも与えることに喜びを感じる心』が必要だ」。

・イエス・キリストは「受けるよりも与えるほうが幸いである」と語る。

まとめ

獲得する事ではなく、与え続ける生き方はこの世的には損な生き方、馬鹿な生き方と考えられがちである。しかし、この様な生き方の中に、人間にとっても本当の幸福があるのである。私たちは他者の喜びを自分の喜びにできる子どもたちを育てたい。ずるく、陰湿に自らの幸福だけ追い求める人間ではなく、この世的見て損はするかもしれないが、他者の喜びを心から喜べる子どもたちを育てたい。